

2015年合格目標●理系(技術職)公務員 Webガイダンスレジュメ

理系 技術職
公務員のための

面接対策ダイジェスト

0. 「技術職」用の特別な面接ってあるのかな。

「技術職公務員」という響きから、皆さんは何をイメージするでしょうか。「行政・事務職とは違う」、「技術分野の専門家」、「研究・実験・計算・製図」と思うかもしれません。

しかしながら、公務員の方々は単独で仕事をするものではありません。技術職を例にとっても、土木や建築、電気、機械、化学、造園、その他さまざまな職種・職員は何らかの業務で結びつきがあり、さらには行政・事務職の職員とも連携しながら、民間にはできない公務員としての業務を行います。

このことを考えると、行政・事務職と技術職の間に違いはありません。技術職公務員を目指す方々は「技術職」である前に、地方自治体や国などの「公務員」であることを意識してみるのがよいでしょう。

また、公務員は、プランを考えることは可能でも、そのプランは民間の協力なしに実現できません。また、民間は図面やデータどおりにモノづくりができますが、公務員のプランがなければ大きなプロジェクトに携われません。公務員は作る側ではなく、**上手に使う側・民間と協力して大きなことをする側**であるといえます。こういったことから、

技術職公務員の面接も、主な部分は行政・事務職の面接と変わらない

と考えられます。実際、本試験面接を受けられた方々にインタビューをしてみると、「技術についての話はほとんどなかった」、「専攻内容や専門的な話はほんの少しだった」ということが大半です。どうやら、「技術職」用の特別な面接といったものを、特に気にすることはないようです。

0. 面接には「基本的な考え方」があるみたいだ。

おそらく、面接官に臨む受講生の方々が一番悩むのは志望理由でしょう。どうすれば志望理由を書けるのか、どんな志望理由なら合格するのか、志望理由の書き方を教えてほしい、など、よく聞かれる質問であり、その気持ちはとても理解できます。しかし、「合格する志望理由」そのものはありません。ありませんが、これに代えるものはあります。**他のどこでもない、ココを選んだ理由をできる限り具体的に、例示や経験、意図を添えて伝えることです。**

■1 ■なぜ民間ではなく、公務員なのか？

民間	公務員
----	-----

*民間と公務員を併願すること自体は悪いものではありません。大切なのは、「民間ではなく公務員が第1志望」という意思を面接官に伝えることです。

*民間と公務員の違い、および共通点を考えたうえで、結果的に公務員を選択した理由を面接官は望んでいます。

■2 ■なぜ国家公務員か、なぜ地方公務員なのか？

民間	国家公務員
	地方公務員

民間	国家公務員
	地方公務員

*国家公務員と地方公務員の併願はよくあることで、それは面接官も承知しています。国家公務員と地方公務員の共通点および相違点、行う業務の規模やその意図、その中で自分は何を行いたいかをよく考えます。

*単に「大きな仕事がしたいから国家公務員」、「住民に接する仕事がしたいから地方公務員」、「学生に接することで大学の力になりたいので国立大学法人」では抽象的な返答となり、その人個人の具体性が見えてきません。

■3■なぜ他の試験種ではなく、この試験種なのか？

民間	国家公務員	他の試験種
	地方公務員	

民間	国家公務員	他の試験種
	地方公務員	

*ココでなら、何ができるのか。ココで何をしたいのか。ココのこういった面が好きだ。ココのこういった面が心配だ（だから、自分はそれを良い方向に伸ばしたい）。ココのことは良く知っている。ココに住んでいたのは決して長くないが、ココでしたいことはもう見つかっている。ココは自分の故郷で、ココを守りたい。など、自然と頭に浮かぶことから初めて、それをより具体的に、よりわかりやすくしていきます。

■4■最終合格したら、どんな業務でどのように働きたいのか。

民間	この国家公務員の 志望理由の1つ	他の試験種
	地方公務員	

民間	国家公務員	他の試験種
	この地方公務員の 志望理由の1つ	

ここまで来れば、他の公務員ではなく、この試験種で最終合格したいという具体的な志望理由にたどり着きます。

面接カードについて～面接カードは「書く面接」。その人の考え方は紙に現れる～

面接カードは①願書提出時②第 1 次試験合格後提出③面接時に提出…など、さまざまなものがありますが、面接カードに書き入れる内容は①～③で大きく変わるわけではありません。

≫面接カードに書き込む内容の例(試験種により異なります)

内容	何を考えて書くか、伝えるべきは何か
志望理由	他の公務員ではなく、ココを志望した具体的な理由
自己PR	ココにとってプラスになるもの。自分のウリ。
学生生活	学生時代で印象に残っていること、頑張ったこと。
アルバイト	アルバイト内容とそこで得た経験。失敗を成功につなげた体験。
長所・短所	(客観的な)自分の長所と短所。具体的に。
大学の専攻	専攻分野をわかりやすく。
研究内容	研究内容をわかりやすく。
卒論内容	卒論内容をわかりやすく。
サークル・部活動・ボランティア活動	(主に学生時代に)打ち込んだこと。
最近読んだ本	読んで学ぶことや共感、さらなる興味を覚えたもの
趣味	「なるほど」「興味深い」と思える趣味
特技	「なるほど」「興味深い」「すごいな!」と思える特技
最近関心を持った事柄	志望理由に関係するもの、共感するもの、その他
他試験の併願状況	嘘を書いて、それを貫き通せますか?
民間との併願	嘘を書いて、それを貫き通せますか?
希望勤務地	「どこでもいい」は答えていないも同然。
資格等	社会人になって、有用であると感じてもらえる資格
(社会人経験の方)前職の業務内容	具体的でなければ納得できない。
(社会人経験の方)前職を辞めた理由	正当な理由を持って辞職したのかどうか。

面接カードは手元から離れてしまうものです。面接カードは面接本番と違い、伝える分量(書くことのできる面積)が決まっており、また、途中で修正や訂正ができません。なので、書いた内容を吟味することが必要です。

- 1)「きれいな字」でなくて構わないが、丁寧な字で。
- 2)誤字・脱字は厳禁。PCで変換をすると、案外とミスリードをするもの。心配な字は調べる癖を。
- 3)自分で分かりやすいと思っている表現でも、他人にはわかりにくいことも。提出前には同世代だけでなく、年長者にも意見を求めてみる。
- 4)具体的であること。抽象的な表現は誰にでも通じるが、中身がないことでもあります。

面接カードを書き終えたら、ために「●●市」を「▲▲市」や「■■県」にしてみてください。または、国家公務員に当てはめてみてください。例えば…

* ●●市の志望理由

住民に対する積極的な取り組みと長期計画は、他の自治体にはない、●●市独自の先進的なものであると思います。また、●●市の住民の方々の目線に立ち、きめの細かな行政サービスを届けたいと思い志望しました。

自分は●●市の職員として、大学で学んだ知識や経験を生かし、●●市を根底から支える業務に就きたいと思います。

という志望理由の●●市を、▲▲市、および国家公務員に書き換えてみます。

* ▲▲市の志望理由

住民に対する積極的な取り組みと長期計画は、他の自治体にはない、▲▲市独自の先進的なものであると思います。また、▲▲市の住民の方々の目線に立ち、きめの細かな行政サービスを届けたいと思い志望しました。

自分は▲▲市の職員として、大学で学んだ知識や経験を生かし、▲▲市を根底から支える業務に就きたいと思います。

* 国家一般職の志望理由

住民に対する積極的な取り組みと長期計画は、~~他の~~自治体にはない、国家公務員独自の先進的なものであると思います。また、住民の方々の目線に立ち、きめの細かな行政サービスを届けたいと思い志望しました。

自分は国家公務員として、大学で学んだ知識や経験を生かし、日本を根底から支える業務に就きたいと思います。

いかがですか？読んでみて、何を感じますか？

そうして試した文に問題がない場合、それはどこでも使える、ありきたりな面接カードとなります。ありきたりな面接カードでは、『なぜココを選んだのか』が伝わってきません。同様に、志望理由を書くのが難しい(どんな志望理由を書けば合格できるのか)と感じた方は、いきおい「見た目の良い」志望理由を手に入れ、それを使おうと思うかも知れません。しかし、面接官はこれまでたくさんの面接カードを読んでいます。また、それを元に面接を何度もしています。また、市販されている面接対策本に目を通していいと思ってよいでしょう。

繰り返しになりますが、面接官が知りたいのは、「民間や他の公務員ではなく、ココを選んだ理由」です。抽象ではなく具体が必要です。面接カードに書くことは、一朝一夕ではまとめられません。早く仕上げようとすればするほど、ありきたりな内容になりがちですから、1次試験に合格し、2次試験に向けて面接カードを書くときは、充分な時間をとることを心がけましょう。参考として、先ほどの例を添削してみました。

●●市の志望理由

住民に対する積極的な取り組み※¹と長期計画※²は、他の自治体にはない、●●市独自の先進的※³なものであると思います。また、●●市の住民の方々の目線※⁴に立ち、きめの細かな行政サービス※⁵を届けたいと思い志望しました。

自分は●●市の職員として、大学で学んだ知識や経験※⁶を生かし、●●市を根底から支える業務※⁷に就きたいと思います。

※1 具体的に、どんな取組例がありますか？

※2 長期計画は、ほぼすべての自治体で行われます。他の自治体で行われていない、または同じ計画でも他の自治体より秀でているものは？

※3 「先進的」の意味するものがわかりません。具体例を。

※4 住民目線とは？また、すべての住民に対して、その目線に合わせられますか？その方法は？

※5 この自治体が独自に行う行政サービスとは？または、これから自分が行いたい行政サービスの目標は？

※6 学んだ知識のうち、どんな内容をどのように役立てますか？

※7 自治体のすべてを根底から支えることは、個人ではできません。自治体として、あなたはどのような計画を行いたいですか？また、この自治体で率先して行うべき「根底から支える業務」は何ですか？

この例では、自分が自治体に対して何をしたいのかを伝えることが足りないようです。他の公務員ではない、コだけの志望理由を書かなければいけませんね。

どんな業務に就き、どのように働きたいのか

まずは面接で想定されるケースから。

面接官：「では、実際に合格したら、どの部署でどんな仕事をしてみたいですか？」

受験者：「大学で学んだことを活かして、●●●局で▲▲の仕事に携わりたいです。」

面接官：「**職員となった際に、その部署に配属されなかったらどうしますか？**」

受験者：「どの部署でも一生懸命頑張ります！」

面接官が「**職員となった際に、その部署に配属されなかったらどうしますか？**」と質問するのはなぜでしょう。いくつかの視点から考えられますが、

1)「どこでもいい」ということは、公務員となって自分がしたい仕事を持っていないのかな…

2)この自治体(または省庁)について、どんな仕事をしているかあまり調べていないのかな…

3)人事配置上、意向と違う部署に配属となることもあるんだよね。そこだと仕事に満足できないかな…

ということを考えているかもしれません。面接官は、やがて同じ職員となる受験生のことに気をつかいます。1人1人は大切な独自資源です。なので、できる限り意欲を持って働いてほしいのですが、配属先によっては、受験者が落胆してしまうかもしれません。

なので、ただ「一生懸命頑張ります！」というよりは、「**■局で◆◆の仕事にも興味がありますので、こちらで**

自分の経験を発揮してみたいです」のように、『**あちらでも、こちらでも仕事をしたい。何と言っても、他の試験種ではなく、ココで仕事をしたい**』ということを具体的に伝えれば、面接官と受験者の溝は埋まってくるでしょう。そして、『**これは志望理由につながる！**』と思いませんか？

どの部署(や省庁内)でどんな仕事をしたいかを考えましょう。そうすることで、働きたい自治体や省庁全体の仕事内容も見えてきます。もちろん、最終試験に合格、晴れて公務員となり、各部署に配属されてすぐに新しい業務をすべて任されたり、企画立案をしたり、ということは考えられませんが、試験種ごとに、配属先での自身の目標を考えることは重要です。

専攻内容

技術系・資格系公務員を目指す方にとって、意外な壁となるのが「専攻内容の説明」です。まず初めに知っておくべきことは、「面接官は、すべての方が必ずしも技術系の専門家ではない」という事実です。

例えば、国家一般職の人事院面接では、およそ面接官3人:受験者1人ですが、3人の面接官がすべて技官、または該当する技術系の専門家ではありません。地方自治体でも同様に、面接官が3人ならばその中に技術系の方は1人で残りは人事の方、場合によってはすべての面接官が人事の方、ということもあります。

そういった方々に、専門用語を使い、他の専門的な事例を述べ、その中で自分が行ったことを長々と説明しても、面接官は(ほとんど)理解できないと思ってください。技術系・資格系を含め、公務員であれば、国民や市民に会う機会があり、さらに話し、クレームを受け、理解してもらうことをこれから経験すると思います。そういった方に、『実験や研究をした人しかわからない言葉で、知らない人にはとても難しい話』をして、話して通じるのでしょうか。技術職の方は納得できるが、そうでない方はなにもわからない…となるでしょう。面接は面接官とのコミュニケーション。その1つとして、難しいことを簡単に話し、わかりにくいことをわかりやすく話すと喜ばれるのではないのでしょうか。そのためには、どうすればいいでしょう？

小学校高学年がわかるように、たとえ話を使いながら、まず概要を説明する

ことができれば、面接官にも伝わります。その内容について面接官が「今話した●●について、もう少し詳しく～」と聞いてくれれば、面接のペースは自分のものになりますし、何と言っても「話したことを理解してくれる」コミュニケーションの成立がとてもうれしいと思います。

〈例〉私は大学で、撥水加工をした金属表面における着霜挙動を、ミクロの観点から顕微鏡を用いて調べ上げました。撥水加工をした金属板と通常の金属板を比較し、その着霜挙動を秒単位で確認することにより、霜ができあがるまでのプロセスを微視的な面で観察したものです。これは各種冷凍施設内などにおける各種金属管の着霜挙動について、熱伝導の効率化の基礎研究となり、実生活においてさらに役立つ冷凍機関の開発につながるものと思います。



自分は大学で、金属パイプが冷えた時にできる霜を顕微鏡で観察しました。例えば冷蔵庫などの霜とりは面倒になったりしますが、それを楽にするための方法を研究したと言えます。

本当に伝えたいことは崩さずに、できる限り簡単に伝えることを考えてみましょう。

資格の学校 **TAC**